



米合衆國貨幣委員報告書

第二号三





414  
A1405  
1

銀ヲ指ス



明石春作譯

大正十一年四月  
大隈侯爵寄贈

他國ニ於テ銀貨ヲ廢止スルノ針路ニ向ハントスル  
現案ノ事情アルニ際シ合衆國ハ實地ニ於テ二重本  
位ヲ維持シ得可キヤヲ論ス

我輩ノ管制外ナル他國ノ政策ニ由テ銀ヲ貨幣ニ使用スルニ不  
適当ナラレムルカ如キ減價ノ勢ニ之レニ附与スルニ際シ我  
國ニ於テ再々銀ヲ貨幣ニ使用シ此勢ニ抗スルヲ吾人ノ力ニ及  
フ可キ所ニアラサルヲ云フモノアリ  
左ニ合衆國ヲ除キ諸國ヲ其金類本位ニ從ヒ類別ナレ且其大凡  
ノ人口ヲ附シテ列記ス

銀貨本位ノ國

人口

魯西亞

七六〇〇〇〇〇〇〇

續



澳大利	三六〇〇〇〇〇
埃及	四五〇〇〇〇〇
墨西哥	八〇〇〇〇〇〇
中部亞米利加	二六〇〇〇〇〇
エクアドル	一、三〇〇〇〇〇
白露	三、四〇〇〇〇
支那	四〇〇、〇〇〇
英領印度	二三七、一四四、五六
合計	七六八、九四四、五六

魯西亞及、澳大利ニハ通用紙幣アルヲ以テ正金拂ノ法ヲ再用スルカ又ハ此法ヲ再用スル為メ正金ヲ蓄積スルヲ始ムルマテ其國ノ人口ハ爰ニ論スル旨趣ニ關係ヲ有スルナレ此人口ヲ減レ去レハ現実ニ銀貨本位ヲ用エル人口六億五千六百九十四

万四千四百五十六人ナリ	
ニ重本位ノ國	
人口	
希臘	一、四〇〇、〇〇〇
ローマニア	四〇〇、〇〇〇
エロンビヤ	二、九〇〇、〇〇〇
ベ子ジュラ	一、六〇〇、〇〇〇
智利	一、九〇〇、〇〇〇
ウルグエー	四〇〇、〇〇〇
パラグエー	一、二〇〇、〇〇〇
日本	三三、〇〇〇、〇〇〇
和蘭	三、七〇〇、〇〇〇
佛蘭西	三六、二〇〇、〇〇〇



白耳義	五、一〇〇、〇〇〇
瑞西	二、七〇〇、〇〇〇
伊太利	二六、八〇〇、〇〇〇
西班牙	一六、四〇〇、〇〇〇
合計	一三七、三〇〇、〇〇〇
伊多利ハ通用紙幣ヲ用ユルノミニアラス尚又確固ナル通用ノ金類貨幣ヲ有スルナシ故ニ此國ノ人口ヲ關係ナキモノトスレハ此部類ノ人口ハ一億一千五十万人トナル又和蘭佛蘭西白耳義瑞西及ヒ西班牙ニ於テハ銀貨ニ制限アリ或ハ全ク一時停止スルアリ其人人口ハ六千四百十万人ナリ	
金貨本位ノ國	
人口	
大貌列嶺	三二、〇〇〇、〇〇〇

4

加拿他	ケープ、ラス、グード、ホープ、及ヒ
豪斯多利	落屬地
日耳曼	四二、〇〇〇、〇〇〇
那威	一、七〇〇、〇〇〇
瑞典	四、三〇〇、〇〇〇
丁抹	一、八〇〇、〇〇〇
葡莖牙	四、〇〇〇、〇〇〇
合計	九二、八〇〇、〇〇〇
此類別中ニ「アラジール、アルゼンタイン、共和國、土耳其、波斯、亞佛利加」ノ大部及ヒ「亞細亞」ノ小國及ヒ落屬地ヲ算入セス	
「アラジール」及ヒ「アルゼンタイン」共和國ハ金貨本位ノ靈名ヲ有ス然レモ實用ノ通貨ハ紙幣ナリ又土耳其及ヒ波斯ハ金貨本位ノ靈名ヲ有ス然レモ其實ハ否ラステ實則「通貨」ニハ金銀兩種	



アリ数月前ニ土耳其ハ政府紙幣ノ發行ヲ始メタリ  
 亞非利加ハ人口夥多ナリ然レモ埃及及ヒケ「プロコロミ」ヲ除  
 ケハ貨幣本位ニ関係ヲ有スル一些少ニシテ且主要ナラス此地  
 方ニ位スル人民中兩種ノ貴金類ヲ貨幣ト認許ス其人民ハ殊ニ  
 銀貨ヲ貴ク之レ數百年來ノ使用ニ由テ或モ熟知ノ貨幣ナルヲ  
 以テノ故ナリ  
 上ニ列举セサリレ亞細亞ノ小國ニ於テ一般ニ銀貨ヲ使用ス就  
 中暹羅、緬甸及ヒ瓜哇ノ和蘭領地ノ如キ諸國ニ於テ人口ハ印度  
 及ヒ支那ニ比スレハ小ナリト雖モ隨分多數ナリ  
 西班牙ニテハ千八百七十六年ノ夏ニ國王ノ敕諭ニ由テ以來改  
 府ノ都合ヲ除クノ外ハ銀貨ノ鑄造ヲ禁止セリ復タ此敕諭ニ銀  
 貨ノ通貨タル職掌ヲ百五十「ベセタ」即チ殆ント二十八弗ニ制限  
 シ金ノ充ナル量ヲ得テ之ヲ貨幣ニ鑄造シタル後チ實際上ニ

分

之レヲ施行セントスル政府ノ主意ナルヲ示セリ「ベセタ」及ヒ  
 「フランク」ハ其抵値同一ナリ此主意ノ由テ來ル処ノ道理ハ金ニ  
 関シ銀ノ價ノ低下ニアリシナリ此敕諭ノ布達サレタルハ倫敦  
 府ニ於テ銀ノ價ハ至極ノ低点ニアリシ再後其市場ニ於テ銀ノ  
 價ノ増進ハ西班牙ノ方策ニ何等ノ影響ヲナスヤハ未タ分明ナ  
 ラス  
 和蘭ハ千八百十六年マテ銀貨單本位ナリシナリ其年ニ二重本  
 位ヲ採用シ兩種金類ノ依法ノ關係ヲ一ニ付一五、八七三トナセ  
 リ此割合ニ由テ銀ノ位ヲ下シ實際上銀ヲ通用外ニ擴充シタリ  
 千八百四十七年ニ於テ再チ銀貨ヲ單本位トシテ用ヒタリ之レ  
 カリホルニアニ於テ金ノ發見アリシニ由テ來ルニニアラスシ  
 テ總カニ其發見ノ前ニアリシナリ千八百四十七年ニ於テ此變  
 更ヲナセシニ付和蘭執政官ノ指示シタル言ナル條理ハ英國ト



全一ナル貨幣法ヲ用ユルハ和蘭ノ貿易及ヒ工業ニ利益ニ  
難状ヲ徴シタリ其法ノ理財上ノ轉動ハ和蘭ノ金貨本位採用ノ  
後チ自他ノ國ヨリモ一層屢時ニ且甚シクシテ和蘭ニ於テハ其  
有害ノ効驗ヲ英國ニ劣ラス感シタリト云フニアリ又其説ニ銀  
貨本位ヲ採用セハ英國ガスノ如キ轉動ニ際シ和蘭ノ貨幣ヲ  
個乾シ和蘭國內ノ商業ヲ混乱スルヲ防止シ且又和蘭ニ賤賤セ  
サル且和蘭ノ其責ニ任セサル弊害ヨリ免カルヘキヲ云フ又千  
八百七十五年ニ於テ政府ノ都合ヲ除クノ外銀貨鑄造ヲ禁止シ  
而種金類ノ依法ノ關係ハ一ニ付一五、六〇、四ノ割合ニテ無限ナ  
ル通貨ノ職掌ヲ有スル金貨ヲ制限ナク鑄造セントスルノ法令  
ヲ議定セリ

此法令ハ顯カニ假設ノモノニシテ再ヒ法令トナシ發行セラル  
ハニアラサレハ千八百七十七年ノ一月ニテ終ルヘキナリキ此

國行政官ハ極メテ金貨本位ヲ可トシ之ヲ設為センク為メ二個  
ノ法律ノ草案ヲ起シタリト雖モ西孫共ニ上下議院ノ決議ヲ得  
ルヲ能ハサリシナリ最初ニ發議シタリシ法令ハ本國ノ造幣所  
ニ於ケル如ク瓜哇ノ造幣所ニ於テ銀貨ノ鑄造ニ制限ヲ定メ和  
蘭ニ於テハ小拂<sup>モット</sup>外銀貨ノ通貨タル職掌ヲ褫奪シ然レモ瓜  
哇ニ於テハ否ラサル事次ニ登議ノ法令ハ爾後銀貨ノ鑄造ヲ全  
ク禁レ且ツ此法令ニテ既ニ鑄造ノ貨幣ヲ廢止スルニアラス然  
レモ大蔵卿ニハ其裁量ニ從ヒ銀貨ヲ買入レ流通ヨリ之レヲ退  
去セレムルヲ許ス事ナリ「ハーギ」府駐劄ノ米國公使ハ千八百  
七十六年十一月二十七日ニ此法令ヲ論シテ曰ク  
和蘭東印度藩屬地ニ付テモ此法令ハ大蔵卿ノ藩屬地事務寧  
相ト違当ノ評議ヲ為スベク許ルヲ以テ其實同一ナル可レ  
此法令ハ昨年十一月ニ下院ニ於テ同意ハシタリト雖モ十二月



ニ上院ニ於テ決定ノ發言ニテ打破サ  
リ而シテ其後十二月  
二十三日ニ内閣ニテハ既ニ議定サレタル千八百七十五年ノ法  
令ヲ確乎遵奉セシムル処ノ新法令ヲ發起シタリ和蘭ノ此最後  
ノ方策ハ尚ホ論定ス可キ処アリ

佛蘭西白耳義伊太利瑞西及ヒ希臘ハ所謂羅甸連合ナルモノヲ  
組成シ千八百八十年マテ其各國ノ大蔵省ニ於テ西種金類間抵  
値ノ關係一ニ付一五五ノ割合ニテ各國ノ金貨及ヒ銀貨ヲ互ヒ  
ニ受領スヘキ條約ヲ取結ヒタリ千八百七十四年一月ニ取結ヒ  
ル後改正ヲ加ヘ尚ホ連續スル所ノ約定ニ由レハ佛蘭西伊多利  
白耳義及ヒ瑞西ハ其銀貨補助貨幣ヲ除キノ鑄造ヲ差ニ示ス  
ル年ノ間フランスリニテ左ノ高ニ制限シタリ

千八百七十四年	一四〇、〇〇〇、〇〇〇
千八百七十五年	一五〇、〇〇〇、〇〇〇

7

千八百七十六年	一〇八、〇〇〇、〇〇〇
---------	-------------

此高ハ其年ノ間ニ約定ニ由テ許シタル銀貨鑄造ノ大極ナリシ  
然レ氏何レノ國ニ各自ニ分割サレタル鑄造ノ高ヲ減サスル  
ヲ得テ現ニ千八百七十五年ニ於テ瑞西ニテ之レヲ減サシタリ  
シ千八百七十六年八月ニ佛蘭西ノ大統領ハ補助貨幣ノ外全ク  
銀貨ノ鑄造ヲ一時停止シタリ之レハ大統領ニ其裁量ニ從ヒ千  
八百七十八年一月迄ハ佛蘭西ノ造幣所ニ於テ銀貨鑄造ヲ差止  
ムルノ權ヲ附与シタル千八百七十六年八月五日議定ノ法律ヲ  
履行シタルナリ千八百七十六年十二月ニ於テ白耳義ハ佛蘭西  
ノ例ニ倣ヒ同シク銀貨ノ鑄造ヲ一時停止シタリ

銀貨鑄造ニ關スル此制限約定ハ世ニ所謂羅甸連合ノ觀望容態  
ト呼ソ所ノモノニシテ一方ニ於テ金貨本位ニ付日耳曼ニ一致  
スルヲ拒ミ他ノ一方ニ於テ若シ後日金貨本位ノ策ニ決スル



中金貨本位ニ移ルノ困難ト其損失トニ增長セシメ如クニ  
銀貨ノ増加ヲ防止スルニアリ傍觀者ノ説ハ各々異ナルテ其約  
定ハ或ハ至極戒慎ナリト云フアリ或ハ定見ナク且怯懦ナリト  
云フアリ然レモ其實ハ何レニモアラステ許議殆ント相ツ半  
セレ中唯リ決スルヲ得ヘキ和談ノ策ナリト云フ可シ

方今政羅巴ニ於テ僅カニ少量ノ銀貨存面スル

合衆國ニ於テ再々銀ヲ貨幣ニ用ユレハ政羅巴ニ於テ此上尚ホ  
一層歳金類ノ廢止ヲ論起セシメ米國ヲシテ低下スル銀ノ漲溢  
流入スル池塘タラシム可シトノ異論ヲ為ス者多シ我輩ハ他國  
ヨリ銀ノ濫入ノ危險ニ冒露セラルハ下ヲ辨説シ能ハサルヲ以  
テ先ツ當時政羅巴ノ諸國ニ於テ現ニ存在スル銀貨及ヒ半銀ノ  
量何程ニシテ其内ヨリ細ユニ於ケル消費ニ要スル為メ賣捌リ  
ヘキモノ何程ナルヤ補助貨幣ノ摩耗及ヒ遺失ヲ補給スルニ何

8

程ヲ要セシヤ又以後年々此摩耗遺失ノ為メ何程ヲ要スルヤヲ  
考究スルノ肝要タル可シ

伊多利澳地利及ヒ魯西亞ニハ通用紙幣アルヲ以テ此筭外トナ  
ス且賣却ス可キ銀貨ヲ有スルヲナシ

伊多利ニ就テハ英國銀取調掛ノ報告(千八百七十六年中ニ記ス  
ルアリ

伊多利ハ漸次其銀貨ヲ減シ千八百六十五年以來巨大ノ高ヲ  
輸出シタリ蓋シ彼國強迫ノ通用紙幣ハ現ニ金類貨幣ノ全高  
ヲ擯ルニ其内銀貨ノ高千八百六十六年ノ始メニ於テ殆ント  
千七百万磅ニ至レリ

同シ報告中千八百七十二年ヨリ千八百七十五年マテ都合四年  
間ニ市場ニ出テタル銀ノ高ノ表ヲ於テ伊多利ハ八百万磅ヲ  
出セリト記ス即チ同時期限ニ於ケル日王曼及ヒスカンジナビ



ヤ諸國合併ノ高ニ均一ナリ又伊多利大蔵卿ハ千八百六十六  
年以來伊多利ヨリ兩種金類ノ輸出ニ億方ト推算セリ  
千八百七十六年十二月二十日ニ羅甸駐劄ノ英國公使ゴルトン  
氏ヨリノ報告中ニ記スル処ノ事實ハ千八百六十六年ニ正金ノ  
代リニ紙幣ヲ發行セシヨリ殆ント價七三千万磅ノ銀ヲ輸出セ  
リトノ氏ノ考説ヲ認定スルニ足ル此高ハ英國ノ銀取調批ノ推  
算ニ殆ント二倍ス若シ千八百六十六年以來兩種金類ノ二億万  
弗ノ輸出サレタルニ相違ナキニ於テハ通用貨幣ノ金類ナリシ  
時ノ間ニ(或ハ引換ヲ得ヘキモノナリシ時ノ間ニ)伊多利ノ通貨  
ニ於テ金貨ニ比例シ銀貨ノ割合ハ常ニ拒大ナリシニ由テ之レ  
ヲ見レハゴルトン氏ノ推算恐ラクハ一層精密ナリト云フ可シ  
又千八百六十二年以前ニ發行サレタル貨幣中ヨリ退去セラレ  
タル高ハ金貨五百四十一万五千弗ニ銀貨九千二百六十三万五

9

千弗ノ割合ナリシ且又千八百六十二年ヨリ千八百七十六年迄  
新タニ鑄造サレタル高ハ銀貨一千七百五十万五千四百八十一  
磅ニ金貨九百四十四万六千六百八十八磅ナリシゴルトン氏ハ  
昨年十月ニ於テ大蔵省及ニ諸銀行ニ存在スル金類貨幣ノ金額  
僅クニ七百万磅ニシテ其割合ハ殆ント金同<sup>銀</sup>一ナリト云フ以上  
挙クル処ノ諸考説ニ由テ十一年間ニ伊多利ハ疑ヒテ一億五  
千万弗ニ近キ銀ノ巨額ヲ市場ニ投出シタルト且伊多利ハ此針  
洛ニ於テ他ニ為スヘキノ事ナキヲ示スニ充分ナリ  
政羅巴ニ於テ不吉ナル財政ノ前表ハ則チ魯西亜ニ於テモ又澳  
地利ニ於テモ早ク正金弗ニ再回スルノ期望ヲ微セザルト是レ  
ナリ女帝カセリンノ治世ニ殆リシ魯西亜ノル<sup>ル</sup>紙幣ハ百  
歳間戦争及ニ國家制度ノ諸種ノ事變ニ遭逢シ或ハ起價シ或ハ  
低下シ又時トシテハ一部ノ棄捐法ニ屬セリ且千八百三十九年



千八百五十七年迄暫時間正金ニ引換ヘラレタ  
 若シ土耳  
 其ト一大戦争ノ起ルアラハ往々アル如ク切迫ナル國用ニ應ス  
 ルカ為メ必ラス債幣上ノ変革ヲ来ス可シ又澳地利ニ於テハ年  
 々國帑ノ不足スルヲ千七百八十九年以來久シク連續シ且現ニ  
 軍備及ヒ兵制ノ必迫ニ由テ方今改進ノ望ハ到底覺束ナレト云  
 不可シ

英國ハ二世以前ニ銀貨ヲ廢止レタルヲ以テ此筭外トナスコトヲ  
 得ル

日耳曼ハ銀貨ノ廢止ヲ未タ全成セサルヲ以テ此内ニ筭入セサ  
 ルヲ得ス其國ニ於テ尚ホ未タ退去セシメテ賣却スヘキ銀貨ノ  
 數ハ猶トシテ一定シ難シ

爰ニ於テ既ニ確知ノ事項ハ銀貨廢止ヲ決定セシ日マテ既ニ積  
 シタル銀貨ノ總高ト千八百七十七年二月二十八日マテニ政府

10

ニ取回シタル高千八百七十六年九月三十日マテニ政府ニテ賣  
 拂ノタル高及ヒ千八百七十七年二月二十八日マテニ新タニ補  
 助債幣ヲ造ルニ用ヒタル高ナリ確知シ難ク且大ニニ差異ノ説  
 アル事項ハ此マテニ遺失シ或ハ鎔解シ或ハ輸出シテ減シタル  
 債幣ノ割合ナリ

旧銀貨ノ總額

四三一、六五〇、〇〇〇弗

千八百七十七年二月二十八日迄ニ退去セラレタル高

一八二、五六一、二一七弗

千八百七十七年二月二十八日迄ニ補助債幣鑄造ニ用ヒタル  
 高

九七、一五〇、六三五弗

千八百七十六年九月三十日迄ニ現ニ賣拂ハシタル高

三九、八四七、六〇〇弗

千八百七十六年九月三十日迄ニ賣却ノ為メ年銀ト變シ未タ

義



賣捌

九、八五五、二〇〇 弗

若レ一人別ニ付補助貨幣ノ仮定ノ制限「マルク」ヲ永久トナサ  
 ハ一人ニ付殆ント二弗半ニ当ルヲ以テ補助貨幣ヲ此制限ニ至  
 ラシマルニ大凡八百万弗ヲ要ス可シ若レ又此制限ヲ十五「マル  
 ク」ニ増スハハ八百万弗ノ代リニ大凡六千万弗ヲ要ス可シ  
 且耳曼ヨリ英國ニ銀ノ輸出ハ千八百七十六年ノ前半季ヨリモ  
 後半季ニ於テ遙カニ大ナリシ此年ノ一月及ヒ二月ノ間ニ其輸  
 出ハ百三十一万七千八百八十磅即チ六百三十九万七千七百十八  
 弗ニシテ昨年同月ノ間ニハ僅カニ十九万六千七百三十八磅即  
 チ九十五万四千八百八十弗ナリシ總体ニ付テ云ハ退去サレタ  
 ル高ト千八百七十七年二月ノ末迄ニ補助貨幣ニ用ヒタル高ト  
 ノ間ノ差異即チ八千五百四十一万五千八百八十二弗ハ賣却サレタ  
 リト決定スルヲ得ル

試者扱スル印  
 アレハ  
 夫リナランカ

11

旧銀貨ノ内ニ五千万弗ハ都テ千八百三十七年以後ニ発行サレ  
 タル「フロリン」又ハ「ギユルデン」ナリ其餘ハ「ターレル」貨ニシテ其  
 内ニ千七百五十年ニ発行ノモノアリ「ギユルデン」貨ハ廢止サレ  
 テ引換期限内ニ百ニ付僅カニ六十八存留セリ又失亡ノ割合ハ  
 久シク失亡ノ諸種ノ原由ニ露出サレタル「ターレル」貨ニ於テ選  
 カニ大ナルヘキヲ云フモノアリ此等貨幣失亡ノ大凡ノ割合ハ  
 或ル記者ノ説ニ由テ五分ノ三ノ大ナル高ニ決定ス然レモ此説  
 ニ依リテ「ギユルデン」貨ハ一層輸出ニ適合レ且又金ヲ含ム多  
 キヲ以テ溶解ニ適合スト云フモノアリ此相反スル説モ此貨幣  
 ノ全ク退去セラレタルハ決セラルヘクシテ其前ニ決スルヲ  
 得ス英國ノ銀取調其ハ確實ヲラスシテ且曖昧ナル処ヲ成可ク  
 搜索ヲ遂ケテ日耳曼政府ハ千八百七十六年七月五日詠批ノ報  
 告ヲ出シ「レ」ノ日ニ於テ尚ホ未タ賣却スヘキ銀貨四千方弗乃



空一億... 有スルヲ判定セリ之ヲ尔後ノ事跡ニ徴スルニ  
小極ノ推算ヨリ寧ロ大極ニ近キヲ具ルナリ英國ノ銀取調概ノ  
計算ニハ僅ニ其時ニ報告サレ且確知サレタル三千万弗ノ賣高  
ノミヲ算入ス然ルニ此時迄ノ賣高ハ恐クハ八千五百万弗ナル  
可レ且三千万弗ノ上ニ此賣高ノ過ハ英國報告ノ日ニ尚ホ未タ  
残餘セル小極ノ推算高ナル四千万弗ヨリモ必ラス大ナリシナ  
ル可レ昨年十一月以來旧銀貨ハ「ターレル」貨ト六分一「ターレル」  
貨トヲ除キ悉ク廢止サレタリ然レモ世評ニハ未タ引換ヘサル  
「ターレル」貨ノ高ハ尚ホ未タ夥多ナリト云フ

又補助貨幣ニ要スル高ニ付テハ結局ニ於テ此清算ニ大ナル差  
異ヲ生ス可レ行政官ハ補助貨幣ヲ尚ホ一半即チ一人別ニ付十  
五「マルク」ニ増加セシメテ發議セリ然レモ此發議ニ立法官ノ異  
論アルヲ以テ現今尚ホ未タ決定ニ至ラス若シ此議ノ実施セラ

12

此佛ハ磅ノ誤  
リナランカ

ルハニ空ラハ其増加一由テ殆ント銀ノ五千二百万弗ヲ要ス可  
レ  
千八百七十七年二月三日ノ「ロンドン」エコノミストニ曰ク当年  
ノ日耳曼造幣公告ニハ補助貨幣ヲ現今ノ依法ナル制限即チ銀  
貨ニテ八百万弗ノ高ヲ全成レ且政府ノ為メニ金ノ量目四万斤  
殆ント千二百十二万五千弗ヲ鑄造セントスト勿論造幣所ハ人  
民ノ所要スル金貨鑄造ノ為メ常ニ開業シテ若シ上ニ奉ル処  
ノモノ実ニ日耳曼諸政府ノ現今ノ公告チルハ諸政府ニテ銀  
貨ノ退去ヲ直チニ結局ニ至ラシメントスルノ意ナキヲ又退去  
ナル可キ高ノ夥多ナラサルヲ察知スルニ足ル  
英國ノ銀取調概報告ノ附録(初葉)ニ於テ千八百七十二年十二月  
十日大貌列巔ノ補助銀貨ノ高ハ千九百五十三万六千磅ナリト  
精意ニ推算ヲ記ス大貌列巔ノ人口三千二百万トナシ英國



「シ」ル「ク」ラ日耳曼ノ「マ」ルクト同價ナリトナサハ人口一人  
別ニ付殆ント十二「マ」ルクトナル可  
英國ノ銀取調批曰ク

日耳曼ニ於テハ英國ニ於ケルヨリ多クノ補助貨幣ノ用ヒラ  
ル、ト疑フ可ラス之レ全ク小ナル金高ノ引出手形ノ行ハル  
ト都テ日常ノ費用ニ於テ英國ノ如ク毎週或ハ毎月勘定法  
ノ代リニ日拂ノ慣習ナルトニ因ルナリ

此故ニ恐ラクハ日耳曼補助貨幣ノ一人別ニ付十五「マ」ルク迄ノ  
増加ハ必竟施行セラル、ニ至リ尚又一層多クノ高ヲ要スルニ  
至ル可キヲ見ル

佛蘭西ノ補助貨幣ハ人口一人別ニ付六「フ」ランク即チ殆ント四  
「マ」ルク半ニ制限セラル若シ本債タル五「フ」ランクノ銀債在テ補  
助貨幣ノ所要ヲ減スル「ナ」キニ於テハ疑ヒナク一人別ニ付キ

13

尚ホ多クノ高ヲ要ス可シ之レ米國ニ於テ一串及ヒ二串ノ通貨  
及ヒ銀行紙幣ニ由テ其所要ヲ減スルト同一ナリ然レモ銀債ヲ  
廢止スルニ於テハ本債タル五「フ」ランクノ銀債ヲモ廢止ス可キ  
カ故ニ若シ之レヲ退去セシムルハ佛蘭西ハ人口一人別ニ付  
少クモ日耳曼同様ノ補助貨幣ヲ要ス可シ

合衆國ニ於テ銀債ヲ再用シ歐羅巴ニ於テ一般ニ之レヲ廢止ス  
ル「ア」ル「バ」ト虫「ヒ」伊多利、澳地利或ハ魯西亞ヨリ我國ニ銀ノ濫  
入スル「ナ」シ此等ノ國ニハ賣却ス可キ銀債アル「ナ」シ又大貌  
列顛ヨリモ来ラス此國ニハ補助貨幣ニ定メタルモノ、外銀債  
ナシ且又日耳曼ヨリハ未タ流通ヲ退去セサル少量ノ外ニ来ル  
可キモノナシ方今歐羅巴ニ於テ残留シアリテ必竟天下ノ市場  
ニ投出サル可キ殆ント全銀債ヲ有スルハ佛蘭西ナリ銀債廢止  
片賣テ「ナ」ル可キ佛蘭西貨幣ノ高ハ日耳曼貨幣ノ高ニ於ケル

六  
義  
目



平均レ其推算甚々差等アリ千七百九十五年鑄造ヲ始メシヨ  
千八百七十六年ニ之レヲ停止シタリシ迄鑄造シタル五フヲ  
レク銀貨ノ全貨數ハ十億八百十五万九千九百四十九個ニシテ  
其抵値九億四千七百五十万弗ナリレ仙蘭西ニ於テ本貨タル通  
用ノ銀貨幣ハ五フヲシテ銀貨アルノミ之レヨリ以下ノ銀貨幣ハ  
約シナル佛蘭西ノ本位下ノ細貨ニシテ壹ニ少量ノ金高ニ用コ  
ルニ過キス英國ノ銀取調批ハ一ノ雜誌ヲ突死シ其會長ハ仙蘭  
西ノ信スヘキ記者ノ説ヨリ得タリト記ス然レ氏其記者ノ名ヲ  
顯ハカス其雜誌中ニ仙蘭西ニ於テ通用本貨タル銀貨幣ノ高ヲ  
二十二億万フヲシテ即チ四億一千三百五十万弗ナリト算定ス  
此算定ノ根基トスル処ハ千八百六十八年ニ於テ諸記者ノ説一  
般ニ符合シ十五億万フヲシテ算定シタルト之レニ尔後仙蘭  
西造幣所ニテ鑄造ノ高五億万ト羅向連合中他ノ國ヨリ輸入ノ

五フヲシテ銀貨二億万トチ加算シタルナリ且又千八百五十七年  
及ヒ千八百六十八年ノ間佛蘭西ノ造幣所ニ於テハ補助ノ損毀  
貨幣改造ノ外銀貨ヲ鑄造シタルトナシ  
「エム、セルヌスキ」名ハ仙蘭西ノ記者一般ノ判定トシテ佛蘭西ノ  
金類貨幣ノ總額ヲ金銀合併シテ十億万弗ナリト云フ且佛蘭西  
銀行ノ豫備金中銀ト金ノ比例ニト五トノ如シト然レ氏銀行外  
ニ於テハ尚ホ少ナル可シ  
「ポ、ル、レロイ、ビウリ」名ハ千八百七十六年三月三日ノ「レ、ラ、ール  
ナル、テス、デ、ベ、ー、ツ」名ハ「残餘セル銀貨ノ總額ヲ僅カニ十二  
億万フヲシテ」ト推算シ其一半ヲ仙蘭西銀行ニアリト云フ又「ウ  
イ、クトル、ホン、子、ツ」名ハモ之レト同様ニ低キ推算ヲナス「エ、ル、子  
ニ、マ、イ、ド」名ハ此推算ヲ過低ナリトナレ且銀貨廢止ノ困難ヲ  
輕減スル為メ金貨本位主唱家ノナスモノナリト云フ然レ氏



自ラ其高ヲ七千万磅即チ三億五千万弗ノ上ニ算スルヲナ  
佛蘭西銀行ニ拂ヒ且預ル正金ノ内銀貨ノ割合ハ次第ニ減サス  
之レヲ以テ佛蘭西ノ記者ハ流通ニ於テ銀貨ノ夥多ナラサルノ  
証ナリト思考ス

我輩ハ佛蘭西ニ於テ四億一千三百五十万弗ヲ本貨タル銀貨幣  
ノ大極ノ推算ナリト看做ス或ハ之レヨリモ少ナル可シ到底其  
量數ノ如何ヲ論セス銀貨ヲ廢止セハ四億万フランリ即チ七千  
五百万弗ハ補助債幣中ニ加ハセサルヘカラス之レニ由レバ補  
助貨幣ハ一人別ニ付二十「フラン」ノ割合トナリ即チ日耳曼ニ  
於テ一人別ニ付十五「マーク」ニ殆シト均一ナル高トナル  
「スカンジナビヤ」諸國ニ就テハ丁抹駐劄我公使(千八百七十六年  
十一月八日宰相「ブイ」氏ニ贈リタル書翰ニ)曰ク銀貨廢止ハ千

丁抹、那威、瑞典  
ノ三國ヲ指ス

15

八百七十六年十月一日ニ全成シ且旧銀貨ハ其時ヨリ全ク消失  
シタリト疑ヒテク那威及ヒ瑞典ニ於テモ之レト同一ナル可シ  
此ハノ國ハ丁抹ト一致レ條約ノ條款ヲ履行シ金貨本位ノ方向  
ニ進行セシカ故ナリ丁抹ニ就テハ退去セラレタル銀貨ノ高賣  
拂ハレタル高及ヒ補助債幣ニ改鑄シタル高ノ精細ナル算定ノ  
公告アレタルアリ其算定左ノ如シ

退去セラレタル高	一一、三九七、五〇〇弗
賣拂ハレタル高	六、八八二、一五〇弗
改鑄ノ高	四、五一五、三五〇弗

改羅巴ニ於テ年々銀ノ消費ハ爰ニ一般銀貨ノ廢止アルモ之レ  
ニ由テ大ナル減少ヲ生セサルヘレ銀器及ヒ細ユニ於テ銀ノ消  
費ハ少シモ影響セラル、トナカル、ク且貨幣ノ遺失及ヒ摩  
耗ニ由ル銀ノ消費ハ殆シト以前ノ如クナル可シ蓋シ銀ハ尚ホ



未タ小賣ノ業ニ於テ且多數人民ノ使用スル貨幣ノ元質ナル可  
ク又遺失摩耗ノ殊ニ多キハ斯ノ如ク使用ノ繁劇ナル貨幣ニ  
アリ銀行及ヒ官庫ノ豫備金中ニハ銀貨ノ高小ナルヘレ爰ニ於  
テハ遺失摩耗アルトナシ  
千八百七十五年マテハケ年間銀ノ英國輸入輸出ノ報告ニ依レ  
ハ毎年平均輸入ノ輸出ニ超過スルト百十四万七千五百磅即チ  
五百八十三万七千五百弗ナリ英國ノ銀取調其ハ貨幣ノ摩耗及  
ヒ遺失ノ高ヲ四十万磅銀器ニ用ユル高ヲ三十五万磅細工ニ消  
費スル高ヲ二十五万磅ト算定セリ政羅巴本地ニ於テハ一人別  
ニ付消費ノ高ハ大貌列顛ニ於ケルヨリ細工ニ於テサナルモ銀  
器ニ用ユルト必ラス大ナル可シ英國ノ銀取調其ノ曰ク銀器ノ  
使用ハ英國ニ於テ首トシテ上等社會ニ限ル然ルニ仙蘭西及ヒ  
日耳曼ニ於テ下等社會及ヒ農民ニ至ル迄少量ノ器物ニ於テ之

16

レヲ使用ス

「ロンドン」エコノミスト「千八百七十六年十二月十六日」中巴里府  
通信者該府ニ於テ銀ノ消費ヲ論シテ曰ク銀ノ要需ハ全ク製造  
ニ用ユルノミニシテ每週價ヒ百万フランク「二十万弗」ヲ要スト  
巴里府ニテハ必ラス佛蘭西人ヨリモ他國ノ消費者ノ為メニ製  
造ヲ為ス可シ然レモ此一都府ニ於テ製造ノ為メ年々價ヒ千万  
弗ノ銀ノ消費ハ實ニ巨大ナリト云フ可シ又政羅巴本地ニ於テ  
摩耗及ヒ遺失ニ由ルノ消費ハ諸大國ニ於テ紙幣ヲ用ヒ金銀貨  
幣ヲ攬作セサレハ非常ノ高トナルヘシ然レモ當時ノ形状ニ於  
ケルモ尚ホ大貌列顛ニ於ケルヨリモ數倍ノ高ナラサル可カラ  
ス  
政羅巴ニ於テ銀ニ金ノ交換ハ「カリホルニア」ニテ金ノ發見以來  
運錫タリシヲ以テ政羅巴ノ正金拂ノ諸國ニ於テ尚ホ未タ殘留



スル銀貨ハ畏ルヘキノ高ニアラス今後兩種金類ノ關係ヲ著シ  
カ概亂スヘキモノハ唯リ伊多利、澳地利及ヒ魯西亜ニテ正金拂  
ヲ復スルニアルノミ其關係ノ如何ハ今後此等ノ國ニテ採用ス  
ル金類本位ニ依ルヘシ若シ其國現今ノ金類本位拂ニ復スレハ  
伊多利ハ二重本位ナルヲ以テ其國ニ於テ正金拂ニ復スレハ一  
ニ付一五、五ノ旧來ノ關係ヲ當ニ回復スルニ過キス然ルニ魯西  
亜及ヒ澳地利ハ銀貨本位ナルヲ以テ此等ノ國ニ於テ正金拂ニ  
復スレハ銀ヲ一ニ付一五、五ノ割合ニ昇ラシマルノミニアラス  
尚又一層昇騰マシムル可シ若シ又此ホノ諸國ニテ正金  
拂ヲ再興スルニ金貨本位ヲ以テスルハ非常ニ金ノ需要ヲ増  
シ且其相関スル抵値ヲ増スアルヘシ然レ氏此等ノ國ニ於テ斯  
ノ如キ再興ハ決シテ成シ難クタルヘク且其設計モ見ヘス尚又  
近年ノ内ニ此等ノ國ニテ金類本位拂ノ再興ハ全ク望外ニ屬ス

17

若シ合衆國ニ於テ再ニ銀ヲ貨幣トナスニ於テハ正金拂再興ノ  
片ニ際シ我國ニ吸入ナルヘキノ高ハ歐羅巴ニテ賣却スヘク  
カナル供給ニ超越スヘク且銀ノ相関スル抵値ヲ日耳曼現今ノ  
舉行前ノ抵値ニ回復スヘシ而シテ何等ノ事變アルモ銀ノ永久  
ノ抵値ハツノ全資ノ多寡地球ノ其流布ノ廣狹及ヒ天下殊ニ  
細細ニ於テ銀ヲ要求スルノ多少ニ確乎トシテ関スルナリ蓋シ  
亜細亞ノ大ナル人口ハ他所ニ於テ銀ヲ何如ニ為スモ永遠不朽  
ニ其貨幣トシテ銀ヲ連用セサルヘカラス又物貨トシテ或ハ貨ト  
ナシ金銀ノ交換スヘキ抵値ハ需要ト供給トニ関シ其需要ハ之  
レヲ要スル人ノ負數ト殷富トニ関シ決シテ人民ノ才智開明又  
小文華ニ関スルモノニアラス  
亜細亞ニ於テ銀ノ需要ノ多寡  
夫ニ銀ハ世界中方今使用セラル、地方就中亜細亞ニ於テ貨幣



トレテ連用ナルヘントノ仮定ヲ以テ合衆國ニ於テ銀ヲ再ヒ價  
幣トナスノ問題ヲ論スルト實ニ討議ノ旨意ニ協フヘシ此レハ  
其実政羅巴ノ金價本位主唱家ノ仮定ニシテ此主唱家ハ之レヲ  
以テ一般ノ銀價廢止ニ由テ來ルヘキ困難衰墮ヲ説クノ人ニ相  
當ノ答辨ヲリトス

「ハ」ホルド名ノ算定ニ由レハ当紀ノ初メニ亞米利加ニ於テ貴  
金類殊ニ銀ノ産出ハ四十三百万弗ニシテ其内二千五百万弗ハ  
貿易ニ由テ亞細亞ニ赴キ決シテ歸來セザリシト  
亞細亞ハ史乘中常ニ銀ノ涵所ナリト知ラレタリ

千八百五十一年ヨリ千八百七十六年迄都合二十六年間ニ埃及  
及ヒ東方ニ正金ノ輸出セシト左ノ如シ

銀貨

金貨

大衆列國ヨリ 七四二、八八六、〇〇〇弗 一三五、四八三、八八五弗

18

佛蘭西諸港ヨリ 二九四、六七一、四五〇弗 一八一、五七九、一五〇弗

合計 一、〇三六、五七七、四五〇弗 三、一六九、六三〇、三五弗

此レニ由テ見レハ年々ノ平均銀貨三千九百八十六万七千五百  
九十四弗金貨一千二百十九万八千八百八十六弗ナリ

千八百七十五年迄都合四十年間ニ英領印度ノミテ銀ノ輸入  
ノ輸出ニ超過スルト一億九千八百四十六万四千磅即チ殆ント  
十億万弗ニシテ且同年間ニ金ノ輸入ノ輸出ニ超過スルト五億  
万弗ナリシ

同レリ四十年間ニ印度ニ於テ銀價ノ鑄造ハ二億一千六十六万  
九百七十五磅ナリシ

此高ノ内ニテ四貨幣ヲ改鑄シタルモノ二千一百万磅ナリシヲ  
以テ造幣ノ全額ヨリ之レヲ減スルモ一億八千九百六十九万七  
十五磅即チ殆ント九億万弗ハ印度在來ノ貨幣ニ此數年間ニ於

大衆列國



テ増加シタル高ナリ

印度ニ於テ一般ニ銀珠ニ銀貨ノ需要ハ甚ク急ニシテ且未タ曾  
テ飽滿セシメナレ若レ印度ニ銀ノ充満スルテアラハ物價ノ價  
ハ非常ニ昇騰ス可レ然ルニ實際ハ之レニ反對セリ何國ヲ論セ  
ス貨幣ノ需要ノ勢カ及ヒ急迫ハ其物價ヲ天下ニ輸出スル物價  
ノ一般ノ程度ニ由テ知ル可レ此レヲ實際ニ徴セヨ印度ニ於テ  
リノ貨幣タル銀ノ需要ハ決レテ此時ヨリ急ナルハナレ印度ノ  
總裁及ヒ參政ハ昨年ノ憂ニ刷行シタル造幣所ニテ銀貨鑄造ヲ  
連續スル條理ノ畧說ニ曰リ

第一、金ハ千八百七十三年三月以來特ニ昨十二月以來騰貴シ  
タリ第二、銀ハ一般ニ物價ト比較スルハ同時期間倫敦ニ於テ  
モ印度ニ於テモ抵値ノ低下レタルヲ見ス

ロンドン、エゴノミスト千八百七十六年十月二十八日ニ右ニ云

19

フ冊子ヲ論シテ曰ク

其結論ニ於テモ并ニ推理ニ於テモ悉ク此畧說ハ寂モ驚クニ  
堪ヘタリ

印度ノ參政ハ千八百七十三年以來印度ニ於テ銀ノ抵値ハ低下  
セナリレ即チ之レヲ云ヒ反セハ印度物價ノ起價セナリト云  
フヲ以テ誤リナシトセリ諸記者ノ說ニ印度ニ於テ銀ハ其時以  
來低下セスレテ反ツテ騰貴レタリト云フニウ、ヨルクノ一記者  
「トエス、ムール」ハ此趣意ニ付容易ニ通知ヲ得ルノ人ニシテ氏  
ノ說ト千八百七十六年十月二十四日ノ「ニウ、ヨルク、イビニング」ボ  
ストト新聞ニ曰ク「方今印度ノ物産ハ十五年間ニ比較スルニ最低  
ノ退潮ニアリト又印度貿易ト弘ク且親シキ關係ヲ有スル倫敦  
ヲ「トラリントン」銀行株主昨年九月ノ年會ニ其頭取ノ曰ク僅カ  
ラ除クノ外、印度ノ物産ハ甚ク遲鈍ナルヲ以テ將ニ政羅巴ニ差

大義省



レ迫レリトナス一般ノ戦争ト虽此上ノ不景氣ヲ来ス<sup>ト</sup>ナカ  
ルヘシ又昨年ノ夏ニ英國ノ銀取調批ニ差出サレタル証跡モ之  
レト全一ニシテ此証跡ニヨリ取調批ノ明白ナリトナス<sup>ト</sup>処ノ印  
度ノ輸出差ニ輸入ハ物價安低ノ準度ナリトノ事實ニ由テサレ  
モツノカララテ矢スル<sup>ト</sup>ナシ蓋シ兩條共ニ同事ニシテ銀ハ印度  
ニ於テ過多ナラス及ツテ欠乏不足ナルヲ証明スルナリ  
分量ノ如何ヲ論マス印度ニ於テ鑄造貨幣ノ需要ハ輒近ニシテ  
當紀ノ前ニアル<sup>ト</sup>ナシ且更ニ近年ニ至ツテハ曾テヨリモ一層  
緊要トナレリ旧来土人ノ慣習ニテ地租ハ土地ノ產物ヲ以テ取  
納シ殆ント諸取引ハ五十年前ニ至ルマテ品換ナリシ印度ノ論  
題ニ付能ク穿鑿ヲ遂ケ且賢明ノ聲名アル記者ノ一人「ダブリウ、  
ナスソー、リ」ハ「東方ニ銀ノ流レト題シテ八百六十三年「カルコ  
ツタ」ニ於テト日附ヲナスト「虫」倫敦ニテ刷行セル冊子ニ於テ

20

曰ク鑄造貨幣ノ使用ハ今尚ホ府外ニ於テ普通<sup>ト</sup>ラス且之ヲ一  
般ニ使用セシメンニハ四億方磅即チ二十億方弗ノ増量ヲ要ス  
可シト此推算ハ仮定ノ人口一億八千万方今ハ二億三千七百万  
ナリト云フヲ基トナシ一人別ニ付大數列顯ニテ使用セラルハ  
ニ均シキ高ヲ以テシタルナリ尤モ「リ」氏ノ意見ニ依レハ印度  
ハ貸信及ヒ名代債幣ヲ用エル<sup>ト</sup>鮮キカ故ニ更ニ多クヲ要ス可  
シトナス又十四年間「カルコツタ」造幣所ノ頭取タリシ「コロ子ル、  
ヘイ、ド、ハ、リ」氏ノ冊子ニ記スルト同一ナル事件ヲ英國ノ銀取  
調批ノ面前ニテ証明シ且自己ノ説ナリトシテ「印度ノ銀ヲ吸入  
スル勢カハ尚ホ未タ大ナリト云ヘリ又他ノ一記者ニシテ印度  
ノ高買<sup>ト</sup>リ藍靛製造家タリ且鏡道ノ支配人タリレ「マクケンジ  
」ハ其國ノ多クノ部ニ於テ通用貨幣未タ全ク不充分ナリシヲ  
証明セリ



勿論過キン四十年ノ内ニ印度貿易ノ権衡ニ於テ浮沈アリシ千八百七十一年ヨリ千八百七十五年迄銀ノ輸入ハ過キン四十年間ヨリモ低キ平均数トナリ且印度ヨリ綿ヲ天下ニ多ク供給シタリシ時節ナル亜米利加内乱ノ間ヨリモ更ニ低キ平均数トナリ又過キン四十年ノ前ニモ同シク且一層大ナル浮沈アリシナリ「リ」氏ノ説ニ依レハ千八百三十二年ヨリ同三十三年ニ至ル一ケ年間ハ印度ニ銀ノ漲流殆ント止ミタリ一時ノ浮沈如何ニ拘ハラズ印度ハ銀ノ溜所ナリトノ事情ハ史乘中古代ヨリ今日ニ至ルマテ違フコトナレ

世界中他ノ部ヨリモ印度ニ絶ヘズ銀ヲ輸入スルハ印度ニ於テ銀坑ノアラサル永遠ノ争態ニ依ルナリ加之ニ印度ニハ貴金類上ニ價位ヲ有スル物債充積シ且人民勉強ニシ殷富ナルヲ以テ貨幣ニ使用スル銀ノ需要常ニ増進レ且裝飾ノ為メ金銀ヲ欲ス

ルノ性情殆ント一撮ナリ

左ニ列スルモノハ千八百三十五年ヨリ千八百七十一年迄三十六年間印度ノ外國貿易ノ輸出入ノ高ナリ

高品ノ輸出	一、〇一、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇 磅
金銀ノ輸出	三、七〇〇、〇〇〇、〇〇〇 磅
高品ノ輸入	五、八三〇、〇〇〇、〇〇〇 磅
金銀ノ輸入	三、一、一〇〇、〇〇〇、〇〇〇 磅

印度ハ英國藩屬地中最大ノ地ナルヲ以テ英國ノ銀取調裁ハ印度ニ関スル此問題ヲ詳細ニ討論シ竟ニ左ノ決議ヲ得タリ曰リ印度ハ過去ニ於テ大ニ銀ノ消費者タリシヲ以テ將來ニ於テモ依然消費者タルコト疑ヒナレ

人口繁殖ナル支那ニ於テハ銀ノ需要ヲ減サスヘキ景況アルヲ見ス支那ニテハ重量ヲ以テ銀ヲ首タル貨幣トナス方今其國ニ



於テ銀貨鑄造ノ為メ造幣所ヲ建設セントノ評議中ナリト云フ  
之レ其更乘中ニ始メテ見ル処ナリ造幣ノ業ヲ起セハ支那國ニ  
ハ貨幣上銀ノ使用ヲ大ニ擴張スルノ勢カラ得ヘレ且之レニ  
由テ印度ニ於テ造幣所ノ建設ヨリ生レタルト均シク品換ニ云  
金拂ヲ交替セシムルニ至リ加フルニ方今通用スル煩勞ニ堪ヘ  
難キ下等金類ノ貨幣ニ代ユルニ小銀貨ヲ以テスルニ至ルヘシ  
支那駐劄米國公使ハ千八百七十六年八月九日ニ北京ヨリ贈リ  
タル書ニ造幣所ヲ建設セントスルノ議論最トモ感シナリト  
云フ

東方ニ於テ銀ノ輸入ヲ止ムヘントノ推測ハ近來銀ノ流急ヲ生  
シタル一大原因タリント雖モ之レヲ普通ノ事情ニ徴スルニ其  
推測ノ無根ナリシヲ証明スルニ足ル蓋シ東方ニ向ツテ此金類  
ノ漲流ハ既ニ再ニ以前ニ倍スル勢カラ得タリロンドン、エゴノ

22

ミストハ左ニ挙ルモノヲ千八百七十五年及千八百七十六年  
ノ間英國ヨリ銀ノ輸出ナリトス

千八百七十五年 千八百七十六年

英領印度へノ輸出 三、二三一、二六六磅 八、二二九、一二四磅

支那へノ輸出 八六三、一三一磅 一、二四九、七二九磅

一磅ヲ四弗八步五厘ノ割合トサハ千八百七十六年ニ印度及  
支那へノ輸出總高四千五百九十七万五千四百三十八弗ナリ  
過キレ二十六年ノ内僅クニ三ヶ年之レヨリ尚ホ大ナルヲアリ  
レ過キレ二十六年ノ平均高ハ二千八百七十四万八千七十七弗  
ナリ是故ニ千八百七十六年ニ於テハ此平均高ニ超過スル一  
千七百万弗ナリレト雖モ印度物産ノ價ハ尚ホ未ク常ニ低下ナ  
リ之則チ印度ノ銀ノ需要ハ尚ホ未ク非常ニ大ニナリト云フニ  
過キス

米 歲 省



上ニ挙クルル処ノ高ハ總算ト云フヘキニアラス殊ニ支那ニ於テハ近年貿易ノ方向ノ変シタルニヨリ以前ヨリモ更ニ大ナル高ヲカン、フランシスコヨリ東方ニ輸送シ其内倫敦為換ノモノ多シ千八百七十六年間ニ送ラレタル高九百一十一万九千二十五弗ナリレ

今年ノ一月及ヒ二月ノ間ニ「カン、フランシスコヨリ支那及ヒ日本へ銀ノ輸出二百六十二万五千六百八十一弗ニシテ英國ヨリ支那及ヒ印度へノ輸出二百一十一万九千二十五磅即チ千万弗ノ上ナリ此高ハ千八百七十六年ノ同月ヨリ三倍以上ノ高ナリ又維也納府造幣所ノ工事ニ徴スルニ西方ニ於テ金ニ比例シ銀ノ價ノ下落スルハ東方ニ於テハ必ラス銀ヲ吸入スルノ勢ヒアル著シキ一例ヲ見ル此造幣所ニテ久シク東方殊ニ埃及へ輸出スル為メ「マリア、セレサ、ター、レルナル」一種ノ貨幣ヲ鑄造ナシタ

23

リ埃及ニ於テ此貨幣ハ数年間日常通用ノ貨幣ナリシ此貨幣鑄造ノ高ハ澳地利ノ二「フロリシ」ラ一弗ニ均一ナリトナシ左ノ如シ

千八百六十九年	一六、八三八弗
千八百七十年	九七、七三七弗
千八百七十一年	一一、四七一弗
千八百七十二年	一六六、九二三弗
千八百七十三年	三六三、七九一弗
千八百七十四年	二、六〇九、〇〇六弗
千八百七十五年	三、四八五、七六〇弗
千八百七十六年	五、三一九、七九二弗

金ニ比例シ銀ノ價ノ低下スルニ從ヒ「マリア、セレサ、ター、レル」貨ニテ澳地利ヨリ東方へノ輸出次第ニ増加セリ

大 義 省



又爰ニ印度貿易上英國ノ銀取調批ノ看過セシ一事件アリ蓋シ此レハ東方一般且殊ニ印度ニ於テ金銀ノ相関スル抵値ヲ慥カカナラシムル努力ニ直接ノ関係ヲ有スルモノナリ千八百七十五年迄四十年間ニ印度ニ輸入シタル十五億万弗ノ内ニテ三分ノ一ハ金ナリ印度ニ於テ金ハ貨幣ニ用ユルニアラステ榮耀奢侈ノ為メニ要スルナリ金ノ抵値騰貴スルハ印度ヨリ之ヲ輸出シ然ラサレハ其輸入ヲ減ス之レ兩種金類ノ相関スル抵値上ニ同一ノ効驗ヲ采スモノナリ

千八百七十六年ノ十一月ヲ千八百七十五年ノ同月間ト比較スルニ印度及ヒ支那ヨリ英國ニ金ノ輸入ハ此等ノ國ヘノ輸出ニ超過スルト左ノ如シ

千八百七十五年

千八百七十六年

印度ヨリ

四、七一七磅

六、一二六、四四八

支那ヨリ

二、七八、五〇八磅

七、五七、九五八

斯ノ如ク東方ニテハ銀ノ輸入ヲ許スノミナラス尚又金ヲ輸出シ然ラサレハ其輸入ヲ減シテ金銀ノ関係ヲ回復シ且ツ之レヲ慥カナラシム可シ

印度ハ負債ノ利子トシテ年々倫敦府ニ於テ拂フノ金高以前ヨリモ遙カニ大ナリト虫正以上論スル如ク其需要スル若干ノ銀ヲ得ヘシ印度ニテ何程マテ金ヲ買入ルハ止メ又其有スル金ヲ賣拂フトモ必ラス銀ヲ得ルノ新法ヲ看出ス可シ蓋シ貨幣(銀)ノ需要急迫ナルニ從ヒ増々金ハ放出セラルト必定ナリ

天下ノ金類供給ニ於テ金ノ割合千八百四十八年以後大ニニ増加セシト

「コロングス」ノ航海以後貨物ト金銀トノ関係ニ於テモ又金銀相互ノ関係ニ於テモ互ヒニ抵抗シテ金銀ノ抵値ヲ管制シタリシ

24



処ノ二オハ新世界ヨリ金銀ノ供給ト東方亜細亞ニ住スル偏重  
 過多ナル人種ノ金銀ノ需要トナリ抑モ金銀兩種ノ相関スル  
 抵値ニ就テ此抗抵スルニカハ第十七紀ノ半頃ニ權衡平均ヲ得  
 テ過キレニケ年ノ不定ナル變動アリシ迄ハ連綿繼續シタリ  
 亞米利加發見以來貴金類ノ供給ニ付銀ノ供給ハ其容積重量及  
 其產出ノ方法ニ由テ容易ニ推定スルヲ得ル蓋シ統計家ハ千  
 四百九十二年以來天下過半ニ銀ノ供給ヲナシタリシ処ノ西班  
 牙領亞米利加ヨリ銀ノ產出ノ殆ント精密ナル算定ヲ得タリト  
 云フ金ノ產出ハ銀ノ如ク容易ニ推定スルヲ得ス然レモ當紀内  
 ニ輸入サレタル金ヲ過半ハカリホルニア及ヒラストラリアノ  
 開化シタル部ヨリ來リシナリ其國ノ記録ニ造幣ノ高ト鑄造シ  
 タル或ハ鑄造セサル金ノ輸出ノ高ヲ記ス其全數ノ算定中ニハ  
 產出ノ精細ニ報告サレザリシモノヲ包含スルヲナキニアラサ

25

ルモ稍々信スヘキモノナリ

カリホルニア發見ノ前後ノ時代ヲ區分シ左ノ推算ヲ得タリ

千四百九十二年ヨリ千八百四十八年迄ノ供給

金 銀

亞米利加ヨリ 一、九九八、〇〇〇、〇〇〇 弗 五、二六一、〇〇〇、〇〇〇 弗

自餘ノ地ヨリ 六、二八、〇〇〇、〇〇〇 弗 四、四一、〇〇〇、〇〇〇 弗

通計 二、六二六、〇〇〇、〇〇〇 弗 五、七〇二、〇〇〇、〇〇〇 弗

千八百四十九年ノ初メヨリ千八百七十六年ノ末迄ノ供

給

金 三、二一五、〇〇〇、〇〇〇 弗

銀 一、三六七、〇〇〇、〇〇〇 弗

千四百九十二年ヨリ千八百四十八年迄ノ推算ハ「チエバリー」

名ノナセシモノニシテ「ストベール」名ノ用ユル処ナリ

後



千八百四十九年ヨリ千八百七十六年迄ノ推算ハ多クナルヘク  
トルベリノ算定ニ基クモノナリ「ロンドン、ユコノミス」トノ推  
算ハ之レヨリ稍々小ナリ「ストベル」ノ推算ハ殆ント同一ナ  
リ但シ普通ナル推算ノ差異ハ緊要ノモノニアラス  
我輩ハ金銀供給ノ論題ヲ終リ當時存在スル金銀ノ全資東方面  
方ニ於テ此元資ノ在ル地位及ヒ毎年毎月ニ於ケル金銀ノ割合  
ノ問題ニ至ルハ各件共ニ疑惑且困難ヲ免カレス

千四百九十二年以來産出シタル金銀ノ高ヲ精密ニ算定シ其  
高ノ一致シタル上ハ當時存在セシ高ヲ知ル「此討議ニ於テ必  
要ナルヘシ我輩ハ政羅巴ニ付總カニ羅馬帝國ノ時代ニ於テ潤  
澤ナリシ処ノ貴金類モ中古ニ至リ非常ニ缺乏ヲ生シタルヲ知  
ル」ニ東方ニ付テハ「事ヲ知ル処ナキニ似タリ」亞米利加發見  
前ニ二三ノ東方巡回者ハ東方ノ金銀及ヒ宝玉石ニ富メル非常且

26

過大ノ説ヲナスト虽モ未タ曾テ推算ノ基トナスヲ得ヘキ例表  
ヲ与ヘタル「ナシ」若シ千四百九十二年ニ存在セシ貴金類ノ精  
細ノ高及ヒ尔後産出サレタル高ハ確知セラル「「アルモ」尔後  
細工ニ於テ及ヒ摩耗遺失ニ由テ消費セタル高ハ算定シ難シ且  
全資中金銀ノ割合モ尚ホ未タ判然タラサルヘシ若シ又過去ニ  
於テ金銀産出ノ割合ハ確知セラル「「アルモ」當時存在セシ金  
銀ノ割合ハ之レト同一ナリト假定スル能ハサル「「恰モ」金銀ノ  
遺失カレ且種々ニ消費サレタル割合ノ不定ナルト實ニ異ナル  
「ナシ」  
貴金類全資中金ノ割合ハ千八百四十九年以後大ニ増加シタ  
リト云フ  
千八百四十九年前銀ノ過多ナル「天下全資中」ニ付三ノ割合  
ナリシ且西部世界(即チ政羅巴亞米利加及ヒ亞米利加ノ開化シ



タル部ヲ云フノ全資中一ニ付二ノ割合ナリト尋常ノ推策ナ  
リシ諸記者ノ説ニテ西部世界ノ全資中金銀ノ割合ハ反對ニナ  
レリ方今ハ金ノ割合過多ナリト云フ千八百六十六年ニチエバ  
リールハ西部世界ニ於テノ割合ヲ金四十四ニ銀三十トナシセ  
ルレル叙ハ同時ニ三十七ニ二十八トナセリ尔後金ノ割合ハ一  
層増加シタリ

到底千八百四十八年以後供給ニ於テ金銀回来ノ割合全ク轉例  
シ且資金額全資中割合ノ大ナル變化ヲ生シタリ然リト雖モ西  
種金額ノ相関スル抵値ハ二年前迄依然タリ

千八百四十八年以來銀ノ産出ノ不足ハ千八百四十八年ニ  
改羅巴ニ存在セシ銀ヲ以テ補給サレタル

千八百四十九年以後割合銀ノ産出ノ不足モ改羅巴及ヒ合衆  
國ノ通用ヨリ放出サレタル高ヲ以テ稍々補給サレ又千八百四

27

十九年以後割合ニ金ノ産出ノ過多モ改羅巴及ヒ亞米利加ノ通  
用中ニ吸入サレタリ若シ改羅巴及ヒ合衆國ヨリ銀ノ放出且改  
羅巴及ヒ合衆國ニ金ノ吸入不朽ニ連續スルアルニ於テハ決  
シテ亞細亞ノ需要ニ由テ銀ノ價ヲ騰貴セシムルノ時ナカルヘ  
シ然レバ改羅巴及ヒ合衆國ハ放出スルノ銀ヲ有スルノ間之レ  
ヲ放出シ得ルモ其通用スル銀ニ金ノ交換全成スルハ此進行ハ  
止マサル可ラス

佛蘭西ニ於テ金類通貨ハ常ニ夥多ニシテ且其貨幣ハカリホル  
ニア及ヒラストラリア金礦ノ發見サレシ時分ハ殆ント全ク銀  
貨ナリシ此發見ノ後チ佛蘭西通貨ノ過半金貨トナリシ迄ハ銀  
ニ金ヲ交換サレ方今ノ姿トナレリ千八百五十六年ヨリ千八百  
六十七年迄間佛蘭西ニ於テハ何人ニテモ銀地金ヲ有スルモノ  
ハ鑄造ヲ其造幣所ニ請フヲ得タリト雖モ本國タル銀貨幣一



個モ鑄造ナレタルヲナシ「モウラン」名ノ算定ニ依レハ千八百五十九年迄ニ「ラストラリア」及ヒ「カリホルニア」ノ金ノ五億万兩ヲ仙蘭西通債中ニ吸入シ殆ント之レト同一ナル銀ノ高ヲ放出シ天下ノ市場ニ於テ賣拂フタリ蓋シ造幣所報告ノ算定ニハ之レヨリモ尚ホ大ナルヘレ「ルイス、ロリッ」王ノ治世「カリホルニア」發見ノ日マテ十七年間ニ仙蘭西金債鑄造ノ全高ハ八百六十万磅ニレテ年々五十万磅ノ平均トナル千八百五十年ノ初メヨリ千八百五十八年ノ末迄仙蘭西金債鑄造ノ全高一億二千九百五十八万七千七百三十五磅ニレテ年々一千四百三十四万三千八百十二磅ノ平均トナル此九年间ノ鑄造高先ノ十七年間ノ鑄造高ヨリ超過スルヲ一億二千九百八十七万七千三百三十五磅ナリ千八百四十八年ノ初メヨリ千八百七十一年ノ末迄仙蘭西金債鑄造ノ全高ハ二億五千九百八十一万一千磅即チ一磅ヲ四兩八錢五厘

28

替トナシ十二億六千一百万兩ナリ  
「ベルリン」大学校ノ教頭「ハルマン」ハ千八百六十六年ニ曰ク  
改羅巴殊ニ開化ノ全世界ハ「ラストラリア」及ヒ「カリホルニア」ヨリ非常ノ到来ニ由テ生セントスル金銀ノ相関スル價ノ混亂ヲ免ケレンニハ仙蘭西ノ法令ニ倣ハサル可カラス  
改羅巴諸國ノ通債ニ於テ銀ヲ金ニ交換スルトハ「カリホルニア」及ヒ「ラストラリア」ヨリ非常ノ到来ニ由テ金ヲ最モ有益ノモノトナレタリレ以来蓋シ進行シテ止マザリレ加之ニ魯西(千八百五十七年)澳地利(千八百六十八年)及ヒ「伊多利」(千八百六十六年)ニ於テ正金拂ヲ廢止シタルニ由リ金ノ代用ナリレテ銀ノ放出ナレタルアリ魯西及ヒ澳地利ハ銀貨本位ノ國ニシテ「伊多利」ハ二重本位ノ國ナリレニ重本位ヲ用エル國ニ於テ銀ヲ金ニ交換スルハ易ク且自然ナリ此交換モ千八百七十二年日耳曼ノ銀



債廢止ノ法令ノ實施セラルルニ至リレマテハ何ホノ損害ヲ求  
ス下ナク且金銀ノ相関スル抵値ニサレモ影響セシメナカリレ  
此法令ト雖モ若シ政羅巴中他ノ國ニテ銀貨鑄造ヲ制限シ且停  
止セサリレニ於テハ金銀ノ相関スル抵値上ニ影響ヲ未サハル  
可レ羅甸連合ハ金銀ノ相関スル抵値ノ稍シ変スルノ前千八百  
七十四年一月ニ銀貨制限ヲ盟約シタリ而シテカリホルニアラ  
見後九年间ニ五乃至六億万ノ金ヲ吸入シタリシ佛國ノ此ニテ  
モ金銀ノ相関スル抵値ノ混乱ナレニ四年間ニ日耳曼ヨリ賣却  
カレタル銀ノ一億万ヲ吸入シ得タルヘキヲ疑フモノナレ然リ  
ト雖モ政羅巴ノ流通ヨリ銀ノ放出ハ金ノ代用ヨリ起リシニモ  
セヨ又ハ正金拂ノ廢止又ハ銀貨ノ廢止ヨリ起リシニモセヨ又  
ハ造幣所ニテ銀ノ鑄造ヲ止メタルヨリ起リシニモセヨ到底補  
助貨幣ニ要スル高ヲ除キ放出シ得ヘキ銀ノ悉ク賣却ハレタル

29

時ニ至リ此進行ハ止マサル可ラス此終句ハ若シ仏蘭西ニテ二  
重本位ヲ固守スレハ實際ニ到達サレタリ若又ハ蘭西ニテ銀  
ヲ發止スルトモ千八百四十九年ニ於ケル如ク銀ノ量教ヲ有セ  
サルヲ以テ此終句ニ達スルヲ遠キニアラサル可シ  
若シ銀ヲ金ニ交換スルヲ尚ホ未タ政羅巴ニ於テ連続スルトモ  
之レ市場ニ働ク一個ノ新勢力アツテ然ルニワラスレテ「カリホ  
ル」ニア及ヒ「ラスト」ラリア「發見」以來尙断ナキ勢力ニ由ルナル可  
シ此勢力ハ現今ノ甚ク減シタル政羅巴ノ銀ノ賣却シ得ヘキ  
モノヲ悉ク乾涸スル迄止マサルヘシ又此勢力ハ新タニ且定期  
ナク恐怖スヘキモノニアラス我輩ハ殆レト三十年ノ經驗ニ由  
テ其定量尺度ヲ洞知セリ蓋シ銀市場ニ於ケル近年少時間ノ危  
急ヲ除カハ此勢力ノ致スル成果ハ殆レト二百年連綿タリシ  
金銀ノ相関スル抵値ヲ卒靜ニ保持セントスルニアリ



千八百四十九年ニ於テ政羅巴本地ノ金類貨幣ハ殆ント全リ銀  
債ナリシ金債本位ハ葡臺牙ト大猷列顛島ノニ和蘭及ヒ魯西亜  
ハ銀債本位ノ國ニレテ其他ニ二重本位ノ國アリシト雖モ流  
通金債ノ高甚ク僅クナリシ若シ亜細亞ニテ銀ノ需要アラサリ  
レニ於テハ千八百四十九年以後新クニ輸入シタル金ハ單ニ政  
羅巴ノ金類貨幣總額ノ増加トナルヘリ而シテ金銀合一ニ流通  
マレヲ以テ金銀ノ相関スル抵値ニ影映スルヲナカルヘシ然レ  
モ亜細亞ニテ銀ヲ需要スルノ故ヲ以テ銀ハ政羅巴ノ流通ヲ退  
去シ金之ニ代リテ其地ヲ占ムルニ至レリ此銀ノ退去ニ由テ政  
羅巴ニアル金銀ノ総高ヲ減セシハ論ヲ俟タス二重本位ノ法ハ  
運行ヲ容易且自由ナラシム蓋シ法令ニ由テ別段定メタル比例  
ニテ貨幣ノ職掌ヲ金銀ニナシク授与スルヲ以テ行レノ金類ガ  
留存ニ何レノ金類ガ退去スルトモ少シモ關係アルヲナシ又政

30

羅巴ニ金ノ吸入ニ由テ過度ニ産出ニシリ其價ノ低下セントス  
ルヲ抑止シ又供給過度ノ及ヒ政羅巴ヨリ放出セラル、銀ノ  
亜細亞ニ輸入セラル、ニ由テ亜細亞ニ於テ銀ノ價ノ騰貴ヲ抑  
止シ何ボノ損害モアルヲナク及ツテ政羅巴ニテニ亜細亞ノ利益  
ヲ保護シタリシナリ  
過キレ三十年内亜細亞ノ需要并ニ細工及ヒ貨幣ノ摩耗遺失ノ  
需要ハ銀ノ供給ヲ悉ク吸入シ尚ホ又千八百四十九年ニ於テ政  
羅巴ニ存在セシ銀ノ過半ヲ吸入シタリ此吸入シ且ツ消費スル  
ノ勢カハ尚ホ未タ減少ナクシテ連續ス是故ニ方今政羅巴ノ銀  
ハ殆ント尽ントスルヲ以テ此勢カハ他ノ助勢ヲ得サルモ後日  
運カニ日耳曼ノ銀債廢止ノ効驗ヲ壓倒シ、造幣所ニ於テ銀ノ鑄  
造ヲ止ムタルノ効驗ヲ中和セシメ且當紀多年ノ間成立セシ金  
銀間ノ抵値ノ關係ヲ恢復スルニ充分強勢ナル可レ



現ニ且ツ忙レク流通スルモノヲ除キ銀貨幣及ヒ銀地金ノ全資  
ハ夥多ヲラス仏蘭西銀行ヲ除キ天下ノ大ナル銀行ニ於テ銀債  
甚ク鮮ナシ佛蘭西銀行ニ於テ銀ハ僅カニ殆ント金ノ五分ノ二  
ナリ当國ニ於テ銀器及ヒ補助貨幣ヲ除キ銀ノ總高ハ造幣所ノ  
頭取ノ算定ニ依レハ三百萬弗ニ過キス



